News Release

株式会社 産業革新機構

2016 年 3 月 1 日

スフェラーパワー株式会社 株式の譲渡について

株式会社産業革新機構（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英）は、保有するスフェラーパワー株式会社（本社：京都府京都市中京区、代表取締役社長：井本聡一郎）の全株式について、京セミ株式会社（本社：京都府京都市伏見区、代表取締役会長 兼 社長：中田仗祐）へ譲渡することを決定しましたのでお知らせ致します。

（参考）INCJ は、2012 年 4 月 23 日に「スフェラーパワー株式会社への投資を決定」を公表しています。

URL： http://www.incj.co.jp/PDF/1417676827.01.pdf

スフェラーパワー株式会社について

設立	2012 年 5 月
事業内容	太陽電池等の製造、仕入および販売
所在地	京都府京都市中京区蒔絵屋町 267 烏丸二条ビル 2 階
代表者	代表取締役社長 井本 聡一郎（いもと そういちろう）
URL	http://www.sphelarpower.jp/

京セミ株式会社について

設立	1980 年 4 月
事業内容	受発光半導体デバイス・複合半導体デバイスならびにモジュールの開発、製造及び販売
所在地	京都府京都市伏見区恵美酒町 949-2
代表者	代表取締役会長 兼 社長 中田 仗祐（なかた じょうすけ）
URL	https://www.kyosemi.co.jp/

株式会社産業革新機構（INCJ）について

INCJ は、2009 年 7 月にオープンイノベーションの推進を通じた次世代産業の育成を目指して、法律に基づき設立された会社です。総額約 2 兆円の投資能力を有しており、革新性を有する事業に対し出資等を行うことで産業革新を支援することをミッションとしています。

INCJ は、投資・技術・経営等で多様な経験をもつ民間人材によって運営されており、

法令に基づき、当社内に設置している産業革新委員会にて、政府の定める支援基準に従って投資の可否の判断を行い、日本の産業革新に資する投資を実施いたします。

（本発表資料のお問い合わせ先）
（株）産業革新機構　企画調整室　入江、大森
東京都千代田区丸の内 1-4-1　丸の内永楽ビルディング 21 階
電　話：03-5218-7200（大代表）

［別紙］

１． 対象事業会社

スフェラーパワー株式会社

・設立　　：2012 年 5 月

・代表者　　：井本　聡一郎

・所在地　　：京都府京都市伏見区

・事業内容　　：太陽電池等の製造、仕入れおよび販売

２． 支援決定概要

・支援決定金額：初回：5.0 億円上限

追加：6.5 億円上限

・実投資額：初回：5.0 億円

追加：6.5 億円

・共同投資家：京セミ株式会社、株式会社日立ハイテクノロジーズ

・株式保有割合：非公表

・支援決定公表日：初回：2012 年 4 月 https://www.incj.co.jp/news/2012/20120423.html

追加：2014 年 3 月 https://www.incj.co.jp/news/2014/20140307.html

・投資ストラクチャー図：https://www.incj.co.jp/performance/upload/docs/1417676827.03.pdf

３． 経緯

（１）出資の経緯

2012 年 5 月、スフェラーパワー社は、シースルー新型太陽電池（商標登録名称：スフェラ―（以下「スフェラ―」））の事業化を目的に、京セミからの会社分割によって設立されました。

スフェラ―パワー社は、シースルー太陽電池の技術開発を通じて、既存の太陽電池ではアプリ開発が困難であった BIPV（建材一体型太陽電池）市場を拡大させ、エネルギー問題解決への一助となることが期待されました。

2012 年 4 月、INCJ は、エネルギー・環境問題に対応した日本発の中小企業ものづくりシーズによる世界太陽電池市場に対する変革と成長をもたらす可能性の追求と、世界的に類を見ないシースルーでデザイン性のある球体型太陽電池の開発による新たな日本発技術の世界的普及を目指し、スフェラ―パワー社に対して 5 億円を上限とする支援決定を行い

ました。

2014 年 3 月、INCJ は、スフェラーパワー社の第三者割当増資を引き受け、フィルム型モジュールの研究開発及びフィルムレス型モジュール試作の研究開発等に必要な資金として、事業の進捗等に基づくマイルストーンに応じて総額 6.5 億円を上限とした追加投資を行うことを決定しました。

（２）事業の進捗

本投資を通じて、スフェラーパワー社は、パイロットプラントでの製造を実現すると共に、販売実績も一定程度積み上がったことから、量産プラントによる製造への移行を企図していました。しかし、パイロットプラントでの製造により得た知見及び実製品をもとに、改めて協力先である大手ガラスメーカーにヒアリングを行ったところ、想定される価格等がマーケットのニーズに合わず、建材としての予想販売数量が経営陣の期待を大幅に下回ることが判明したため、当初想定していた大型の生産設備の導入が当面不要となりました。

（３）Exit の経緯・内容

こうした中、事業計画を精査する過程において、京セミから INCJ に対して、スフェラーパワー株式の全部を買い取りたいとの申し入れがありました。INCJ としても、今後の経営を京セミに委ねることが、スフェラーパワーの事業継続にとって最も適切と判断し、2016 年 3 月、京セミの申し出を受け入れ、保有する全株式を同社に譲渡することとしました。

４．<u>主務大臣（経済産業大臣）の意見</u>

ベンチャー企業等への積極的な支援は、今後も我が国の産業競争力の強化において重要である。本案件の課題を分析し、その反省に立って引き続きベンチャー企業等への支援を行うとともに、支援案件全体としての収益性の確保に努められたい。